

三野町の植物相

植物相班 (徳島県植物研究会)

木下 覺^{*1} 植北ちず子^{*2} 小川 誠^{*3} 片山 泰雄^{*4} 木村 晴夫^{*5} 木内 和美^{*6}
 小松 研一^{*7} 真鍋 邦男^{*8} 水上 敏夫^{*9}

1. はじめに

本町の北部山地の大川山は、近隣の美馬町の竜王山、脇町の大滝山、池田町の雲辺寺山などとともに讃岐山脈の代表的な山であり、山頂部やその周辺にはわずかではあるが植生の豊かな樹林が残っている。また、真鈴峠や檜ノ休場は藩政時代の交通の要衝として開かれてきた所であり、一部に、やや良好な二次林が見られる。スギ・ヒノキの植林地をはじめ、里山として、人々の生活と深く関わって利用され、維持されてきた低山や山麓の樹林。自然植生に近い樹林が残る社寺林や河内谷川沿いの樹林。山麓一帯に分布するため池群。吉野川河畔の水防竹林や河畔林、川原や河川敷、水田や畑地など、本町における植物の生育環境は多様である。

植物相班では、本町の植物相を明らかにするため、それぞれの地域に分布する植物の調査を行った。以下、その結果を報告する。

2. 自然環境

三野町は徳島県の西北部、吉野川上流北岸に位置し、東は美馬町、西は三好町、北は香川県 仲南町及び琴南町と接する面積43.33km²の地域である。町の北部は最北端の大川山(1042.9m)を最高峰に、その西には、かつて交通の要衝であった檜ノ休場、南東には真鈴峠など、海拔700~900mの山々が連なる讃岐山脈の急峻な山地である。地質は山麓を東西に走る中央構造線、その南側は三波川帯、北側は和

泉帯に属している。吉野川は三波川帯を流れ、その流域の低地は沖積層である。山地の大部分を占める和泉帯は、大部分が砂岩、砂質泥岩、泥岩及びそれらの互層からなり、一部に凝灰岩層を挟んでいる。

本町を東西に分断するように流れる河内谷川は、大川山や檜ノ休場など、北部の山地に源を発する松尾谷川、大平谷川、白井谷川などの支流を集めながら南流して吉野川に注いでいる。吉野川は町南端部を西から東に流れ、その北岸流域の沖積地や河内谷川河口付近の扇状地などには平地が開かれ、農耕地や住宅地となっている。

気候はメッシュ気候値を見ると、年平均気温15.2℃、年降水量1379mm(徳島地方気象台1991)で、瀬戸内気候区に属し、温暖で降水量の少ない地域である。

土地の利用状況をみると、ハッサクの栽培が盛んで、菌床を主とした椎茸、葉煙草の栽培、養蚕などもわずかに行われていて、水田や畑地、果樹園などの占める割合は全体の約6%である。約70%を占める森林は、その大部分がスギ・ヒノキの植林、シイタケ栽培の目的で植栽されたクヌギ林、伐採後に生じた二次林などとなっている。大川山をはじめ標高の高い山地にはイヌシデやアカシデなどが生育する自然植生に近い二次林があり、植物相も比較的豊かである。低山には、クヌギやコナラの生育する二次林、一般的には雑木林と呼ばれる樹林が多い(図1)。山麓には放置状態になったクワ畑も見られる。社寺林、谷筋、植林に適さない崖地などには、アラカシ

*1 鳴門市北灘町粟田 *2 相生町西納 *3 徳島県立博物館 *4 神山町神領字川北 *5 徳島市北田宮3丁目
 *6 牟岐町中村字本村 *7 徳島市新浜町4丁目 *8 板野郡上板町瀬部 *9 徳島市鷹匠町4丁目



図1 低山のクヌギ・コナラ林

ヤクスノキ、ヤブツバキなどの常緑樹やケヤキ、ムクノキなどの落葉樹が生育する自然林やそれに近い樹林がわずかに残っている。また、降水量の少ない地域であるため、山麓には灌漑用ため池が多く築かれ、その一部には、湿地生植物や水生植物が生育している。吉野川河畔には水防竹林やアキニレ、ヤナギ類が生育する河畔林が残され、帰化植物などの多い河川敷や川原もある。このように本町の林野の大部分は、人々の生活と深く関わりながら、絶えず人為的な行為が加えられて今日に至っている。そ

の結果、自然林は極めて少ないが、変化に富んだ良好な生育環境が維持されている場所も少なくない。

今回の調査では、本町の植物相を明らかにするため、標高の高い大川山などの北部の山地、河内谷川に沿った谷筋や溪谷、二次林、植林地、ため池、吉野川河畔など、本町の植生を特徴づけていると考えられる場所を重点的に調査した（図2）。

3. 調査結果の概要

調査結果から、代表的な樹林や確認された希少種などをあげると次のようである。

1) 北部山地の冷温帯域～中間温帯域の植物

(1) 大川山山頂周辺の樹林「調査地1」

本県では、標高約1000m以上の山地では冷温帯のブナ林が発達するようになる。本町の最高峰である大川山山頂付近は、標高からすれば、部分的に冷温帯域に属すると考えられ、過去には生育の記録がある（阿部1990 徳島県植物誌P.43）。しかし、今回の調査では、本県側にブナの生育を確認することはできず、伐採後に生じた次のような二次林が見られた。

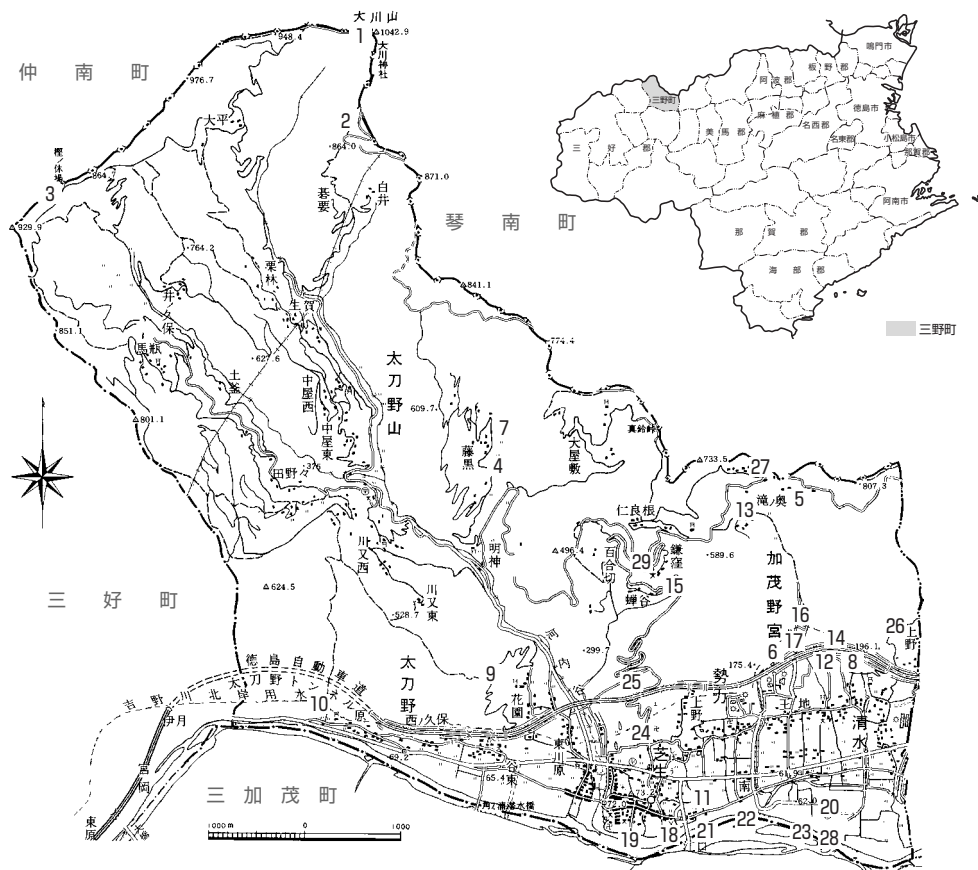


図2 主な調査地点（数字は調査地番号）

「山頂付近の二次林」

高木層：イヌシデ、エゴノキ、ヤマハンノキ、スギ、コナラ、クマシデ、ヤマザクラ、クワ、ウリハダカエデ。亜高木層：ウリハダカエデ、コハウチワカエデ、カナクギノキ、アオハダ、サルナシ、イヌシデ、ヒメシヤラ、ヤマナシ。低木層：ヤマコウバシ、ガマズミ、クマノミズキ、リョウブ、アキグミ、オンツツジ、ノリウツギ、シロモジ、エンコウカエデ、シラキ、コマユミ、ツリバナ、ヤマウルシ、ナワシログミ、タンナサワフタギ、カマツカ、コバノミツバツツジ、イヌツゲ、ナツツバキ、ソヨゴ、コハウチワカエデ、タムシバ、ウリハダカエデ、コシアブラ、ウワミズザクラ、ヤマウグイスカグラ、タカノツメ。草本層：シロヨメナ、イタドリ、シハイスミレ、フタリシズカ、ツリバナ、クサギ、サンショウ、チヂミザサ、テイカカズラ、サルトリイバラ、ミツデカエデ、トリガタハンショウヅル、シロモジ、ケクロモジ、ヤマウルシ、ミツバアケビ、ハナイカダ、ケマルバスミレ、ハエドクソウ、オカタツナミソウ、ニシノヤマタイミンガサ、アオテンナンショウ、ヤマハッカ、クモキリソウ、モミジガサ、シシガシラ、クロフネサイシン、ミヤマシキミ、クリ、ヒメキンミズヒキ、ハリガネウラボ、オオツヅラフジ、オオカモメヅル、ヤブウツギ、リュウノウギク、イラクサ、オオバギボウシ、ウリクサ、ウバユリ、マムシグサ、ゼンマイ、ギンラン、オオバノトンボソウ、ミツバツチグリ、ウバママコナ、コウヤボウキ、ツルリンドウ、コマユミ、ツルシキミ。

「大川山寺参道周辺～神社」

アラゲアオダモ、コバノトネリコ、オンツツジ、ウツボグサ、ナシ（栽）、ヌルデ、クリ、リョウブ、イチヤクソウ、ホタルブクロ、エンコウカエデ、コハウチワカエデ、イヌシデ、シロモジ、タンナサワフタギ、ミツデカエデ、ヤマウグイスカグラ、ヤブイバラ、ツルニンジン、ウリハダカエデ、ミツバツチグリ、ウバママコナ、ヤマジノホトトギス、マツブサ、ヒノキ（栽）、トリガタハンショウヅル、アキグミ、コマユミ、ガマズミ、ヤマヤナギ、ワレモコウ、アマドコロ、イタドリ、ヤマウルシ、ケネザサ、ニョイスミレ、ウラボ、コバノミツバツツジ、コックバネウツギ、ヤマザクラ、キツネノボタン、

スイバ、ケキツネノボタン、ヨモギ、フタリシズカ、アキノタムラソウ、オオバナニガナ、クロフネサイシン、ヒカゲスゲ、ジャノヒゲ、タンナトリカブト、ツリガネニンジン、ニガイチゴ、メアオスゲ、シラヤマギク、ウバユリ、シシガシラ、センボンヤリ、ウワミズザクラ、ナルコユリ、コフウロ、ヤマジスゲ、ヤワラスゲ、ミズキ、シキミ、カナクギノキ、コナラ、サンカクヅル、オオモミジ、ツルアジサイ（ゴトウヅル）、シラキ、エゴノキ、スギ（栽）、コバノガマズミ、ナワシログミ、アサガラ、ツルウメモドキ、キブシ、ハバヤマボクチ、トウギボウシ（オオバギボウシ）。

(2) 大川山中腹付近の二次林「調査地2」

*注：（ ）の数字は胸高周囲

高木層：イヌシデ（優占）、アカシデ、コナラ、ミヤマザクラ（760cm）、ヤマハンノキ（82cm）、ハリギリ、クリ、ミズキ、エゴノキ、アカマツ。亜高木層：リョウブ、ソヨゴ、ウリハダカエデ、コハウチワカエデ、コックバネウツギ、ヤマフジ。低木層：アオハダ、タンナサワフタギ、アセビ、リョウブ、アワブキ、ネジキ、ナガバモミジイチゴ、ヤブイバラ、コバノミツバツツジ、ミヤマガマズミ、サルナシ、ウラジロノキ、マツブサ、オンツツジ、アズサ、シラキ、アラカシ、コマユミ。草本層：ミツバアケビ、タンナサワフタギ、ギンリョウソウ、ヤマウルシ、イヌツゲ、サルトリイバラ、シシガシラ、ツレサギソウ、コバノガマズミ、ヒサカキ、マツブサ、ミヤマシキミ、アオハダ、カナクギノキ、イタドリ、テイショウソウ、エンコウカエデ、イヌザンショウ、ツルリンドウ、エビガライチゴ、コックバネウツギ、ゼンマイ。

「同所の尾根筋」

高木層：ヤマザクラ、ウリハダカエデ、ノグルミ、イタヤカエデ、コナラ、ハリギリ、カラスザンショウ。亜高木層：シロモジ、アカシデ、イヌシデ、シラキ、ウリハダカエデ、コハウチワカエデ、ウラジロノキ。低木層：シラキ、アセビ、シロモジ、ネジキ、コハウチワカエデ、コバノミツバツツジ、ケクロモジ。草本層：オンツツジ、ウバママコナ、ミツバアケビ、シハイスミレ、コウヤボウキ、ウリハダカエデ、サルトリイバラ、マムシグサ、テイショウ

ソウ、コナラ、ガマズミ、ヤブムラサキ、アセビ、ワラビ、ミヤマシキミ、ツルシキミ、ツルアジサイ、オオバノトンボソウ、ウワミズザクラ、ツルニンジン、シラヤマギク、ガンクビソウ、ハナビゼリ。

(3) 櫻ノ休場の二次林「調査地3」

高木層：コナラ（優占）、クヌギ、スギ、アサガラ、エゴノキ、サルナシ、ヤマナシ、ホオノキ。亜高木層：シロモジ、コナラ、イタヤカエデ、ウラジロノキ、ヤマダマ、ヒノキ、ノグルミ。低木層：ヤマウグイスカグラ、ガマズミ、ヤマコウバシ、サワシバ、ツリバナ、スノキ、ノリウツギ、イヌガヤ、コバノガマズミ、ミズキ、イヌザンショウ、ウワミズザクラ。草本層：ナガバモミジイチゴ、トチバニンジン、シロモジ、サルトリイバラ、シハイスミレ、クサギ、エンコウカエデ、ミツバアケビ、チゴユリ、ミヤコアオイ、カナクギノキ、イタドリ、アカシヨウマ、ヤブレガサ、フタリシズカ、テイショウソウ。

(4) アカマツ林

低地ではアカマツの多くがマツクイムシの被害を受けたが、標高約500m付近から上部の山地には所々にアカマツ林が残っている。

① 藤黒のアカマツ林（標高約590m）「調査地4」

高木層：アカマツ（優占）、コナラ、ヤマザクラ。亜高木層：アカメガシワ、ソヨゴ、アラカシ、コナラ、クマノミズキ。低木層：ケクロモジ、ウラジロガシ、ノリウツギ、ヤマウルシ、ヒヨドリバナ、リョウブ、ウワミズザクラ、サルトリイバラ、ニワトコ、ヤブムラサキ、アカシデ、ヒサカキ。草本層：ヒカゲイノコズチ、イタドリ、キンラン、ダイコンソウ、クワ、タニイヌワラビ、クサイチゴ、フキ、シロヨメナ、ノイバラ、オトコエシ、ヤブイバラ、ノグルミ、サルトリイバラ、アキノタムラソウ、イノデ、ガンクビソウ、リョウメンシダ、ベニシダ。

② 滝ノ奥のアカマツ林「調査地5」

高木層：コナラ、コシアブラ、カラスザンショウ、ウラジロノキ、ウワミズザクラ。低木層：ヒサカキ、オンツツジ、リョウブ、ソヨゴ、ナツハゼ、ヤマウルシ、サルトリイバラ、コバノガマズミ、アカメガシワ、コナラ、ダンコウバイ。草本層：ヒサカキ、コナラ、ソヨゴ、ケスゲ、アケビ、ツクバネウツギ。

2) 山麓の暖温帯域の植物

神聖な場所として保護されてきた社叢や、植林に適さない谷筋や崖地などには、アラカシやヤブツバキなどが生育し、暖温帯域の特色をもつ常緑樹林がわずかに残されている。

(1) 滝寺参道周辺の樹林「調査地6」

「滝寺の谷筋に沿った参道の樹林」

高木層：アラカシ（優占）、アカマツ、ネジキ。亜高木層：ヤブツバキ、リョウブ、ネムノキ。低木層：ヒサカキ、サルトリイバラ、ナツハゼ、マルバアオダモ、キハギ、ヤブツバキ、ビワ、ツクバネウツギ、シラキ、ネズミモチ、テイカカズラ、タラノキ、ヤマフジ、マルバウツギ、ナワシログミ、ヌルデ、クマノミズキ、アオキ。草本層：マルバベニシダ、アラカシ、ガクウツギ、テイカカズラ、ススキ、ヤブコウジ、ヤマイタチシダ、ネコハギ、ヒメイタチシダ、アケビ、ダンコウバイ、イノモトソウ、クマワラビ、シャガ。

「龍頭の滝周辺の樹林」

滝の岸壁にはケヤキ、イロハカエデ、アラカシ、イワタバコなどが生育している。

その下部の滝の周辺には、次のような植物が生育している。コセンダングサ、イノモトソウ、キカラスウリ、カラムシ（クサマオ）、アシボソ、ゲジゲジシダ、アメリカセンダングサ、ヒヨドリジョウゴ、ハキダメギク、イノコズチ、クワクサ、エノキ、オニヤブソテツ、ホシダ、クズ、ハナタデ、シロヨメナ、イブキシダ、コアカソ、キハギ、ツユクサ、イワタバコ、ノガリヤス、ホタルカズラ、キブシ、ヤブラン、ネズミモチ、スイカズラ、イタドリ、ミズヒキ、マツザカシダ、ミゾソバ、アカメガシワ、ノブドウ、ナワシロイチゴ、ヤクシソウ、カモジグサ、オオナキリスゲ、ナキリスゲ、アラゲアオダモ、オオバノイノモトソウ、ススキ、センダングサ、フユザンショウ、コゴメナキリスゲ、アオミズ、モミジカラスウリ、ナンテン、ヤブハギ、ヤブニンジン、スズメウリ、ムクノキ、アオキ、オオモミジ、イノデ、マメヅタ、メナモミ、ヒメワラビ。

(2) 藤黒の樹林「調査地7」

高木層：コナラ（優占）、アラカシ、カラスザンショウ、スギ（植栽）、イヌザクラ（158cm）、ヤマザクラ（166cm、135cm）、ケヤキ。亜高木層：アラ

カシ、カゴノキ。低木層：アラカシ、ヒサカキ、ヤマウルシ、ヤブニッケイ、カゴノキ、アオキ、テイカカズラ、シロダモ、サイゴクベニシダ、シュロ、ゴンズイ、チャ。草本層：チャ、ベニシダ、ヤブソテツ、ホシダ、サンショウ、クマワラビ。

(3) 清水^{しみず}の谷筋のケヤキ林「調査地8」

高木層：ケヤキ（優占、218cm、168cm、145cm、139cm）、ムクノキ（177cm、146cm）、センダン（252cm）、コナラ（135cm）、クスノキ、スギ、クリ。亜高木層：ノグルミ、ヤマザクラ、アラカシ、クスノキ、テイカカズラ。低木層：ヤブニッケイ、シロダモ、ヒサカキ、ナワシロイチゴ、イヌビワ、マルバウツギ、ナンテン、ナガバモミジイチゴ、アラカシ、チャ、ノキシノブ、マサキ。草本層：ヤブラン、ヒメイタチシダ、チヂミザサ、ホシダ、ヤブソテツ、キツタ（フユツタ）、イノモトソウ、ヤブニッケイ、ヤマイタチシダ、サルトリイバラ。

(4) 社寺林

近年、社寺林が、管理上の目的で、低木や下草が除去されることがよく見られるが、本町にはツブラジイ、ムクノキ、クスノキなどが林冠を形成する次のような樹林が、比較的良好な状態で残されている。

①若宮神社の社叢（花園）「調査地9」

高木層：ムクノキ（優占）、ツブラジイ、スギ（栽）、クスノキ、シナアブラギリ、ノグルミ、ネムノキ、ヤマザクラ。亜高木層：アラカシ、ツブラジイ。低木層：タラヨウ、アラカシ、イヌビワ、ネズミモチ、アオキ、ヤブツバキ、ヒサカキ。草本層：ベニシダ、テイカカズラ、アオキ、ムクノキ、シャガ、フユイチゴ、ナガバジャノヒゲ、ハリギリ、コバノカナワラビ、ミズヒキ、ヤマフジ、イヌビワ、アラカシ、ヤブソテツ、オニヤブソテツ、ムラサキケマン、イノコズチ、ホシダ。

②日吉神社の社叢「調査地10」

高木層：ムクノキ、カゴノキ。亜高木層：ヤブニッケイ、シュロ、ビワ、クスノキ、ツルマサキ、ナツツタ、クスドイゲ（57cm、100cm）、ネズミモチ、ナナミノキ。低木層：アオキ、ヤブニッケイ、ナンテン、ネズミモチ、コクサギ、シロダモ、クスドイゲ、ヤブツバキ。草本層：オニヤブソテツ、ナガバジャノヒゲ、ヤブラン、ナンテン、コクサギ、サイ

ハイラン。

③勢力神社^{せいりき}（芝生^{しばう}）の社叢「調査地11」

イラクサ、アカネ、サンゴジュ、アメリカイヌホオズキ、ツユクサ、ネザサ、ムクノキ（324cm、347cm）、スギ（278cm）、シオデ、カラムシ（クサマオ）、ヒヨドリジョウゴ、キカラスウリ、ヨウシュヤマゴボウ、ヤブミョウガ、クスノキ（321cm）、イチヨウ、ヒヨドリバナ、カタバミ、ヨモギ、クワ、イロハカエデ、スイバ、コセンダングサ、ニガクサ、ムラサキニガナ、ノブドウ、イノコズチ、ムクゲ、エノコログサ、セイタカアワダチソウ、ヤマノイモ、サカキ。

④清水の天満宮の社叢（萌芽林）「調査地12」

高木層：ヤマザクラ、ケヤキ、スギ、イチヨウ（♀）（以上境内に植栽）、アラカシ（優占）、コナラ、クスノキ、クリ、ネムノキ、ハゼノキ。亜高木層：アラカシ、ムクノキ、ヤマザクラ。低木層：アラカシ、サカキ、ヒメコウゾ、シュロ、ヤマガキ、マルバウツギ、イヌビワ、ナンテン、ヤブニッケイ。草本層：テイカカズラ、ジャノヒゲ、コヤブラン、ベニシダ、キツタ（フユツタ）、ヤブラン、ヤブソテツ、ヒメイタチシダ。

3) 人工林

本町の人工林はヒノキ・スギの植林のほか、シイタケ栽培用のクヌギの植林が多く見られる。ヒノキやスギ植林地では間伐や枝打ちなどの管理が不十分で、林床にほとんど植生が見られない樹林も少なくない。植生が比較的豊富な植林地の構成種は次のようである。

(1) スギ植林（滝ノ奥）「調査地13」

高木層：スギ（植林）。低木層：ヤマガキ、ヒサカキ、ヤマウルシ、シラカシ、シロダモ、アセビ、ケクロモジ。草本層：コアカソ、シケチシダ、ハナタデ、アカソ、キヨスミヒメワラビ、ヤブソテツ、ヒロハイヌワラビ、カラクサイヌワラビ、ヤブハギ、ベニシダ、フタリシズカ、サルナシ、キヨタキシダ、ゼンマイ、ダンコウバイ、ミヤマフユイチゴ。

(2) ヒノキ植林地（清水）「調査地14」

高木層：ヒノキ（植林）。低木層：ヒサカキ、ヤマフジ、アラカシ、ナンテン、メダケ、クサギ、アケビ、ケヤキ、ヤマウルシ、ヤブニッケイ、ヒイラ

ギ、タラノキ、テイカカズラ、マルバウツギ、ビナンカズラ、カゴノキ。草本層：ベニシダ、サルトリイバラ、コウヤボウキ、コヤブラン、ナガバジャノヒゲ、テイカカズラ、ワラビ、ナツフジ、ナキリスゲ、フユイチゴ、シャガ、ジャノヒゲ、ヤワラシダ、キツタ（フユツタ）、クサイチゴ、カニクサ、オニヤブソテツ、ホシダ、ハカタシダ、チヂミザサ、ノガリヤス、ウバユリ、ミドリハカタシダ、サイコクベニシダ、ササクサ、アオツヅラフジ、アマドコロ、キジカクシ。

(3) 東谷のクヌギ・コナラ林「調査地15」

高木層：クヌギ・コナラ（優占）、ネム、キリ、ノグルミ、イヌザクラ。亜高木層：アラカシ、クマノミズキ、ハゼノキ、ノグルミ。低木層：ヒノキ、ヤマザクラ、ヌルデ、ネズミモチ、イヌザンショウ、コバノガマズミ、ヤマウグイスカグラ、ヤマウルシ、マルバアオダモ、ヒサカキ、ダンコウバイ、ヤマガキ、ナワシログミ、ミツデカエデ、クサギ、サンショウ。草本層：コウヤボウキ、ケスゲ、ジャノヒゲ、シュンラン、テイカカズラ、ナガバジャノヒゲ、サルトリイバラ、アオツヅラフジ、シロヨメナ、チヂミザサ、ナツフジ、ノイバラ、ナルコユリ。

(4) 紅葉温泉東のクヌギ林「調査地16」

高木層：クヌギ・コナラ（優占）、ケヤキ、ヤマザクラ、ムクノキ、センダン、エノキ、ネムノキ。亜高木層：アラカシ、シュロ、コナラ、シナアブラギリ、ヤマガキ。草本層：ヤブラン、テイカカズラ、イタドリ、イノコズチ、センニンソウ、ノガリヤス、マルバウツギ、ホタルカズラ、ホシダ、シロヨメナ、キツタ（フユツタ）、アケビ、ツルウメモドキ、オオハンゲ、カラムシ（クサマオ）、マンリョウ、チヂミザサ、ヒメドコロ、ナキリスゲ、ヤブコウジ、コウヤボウキ、ヤマガキ。

(5) 紅葉温泉付近の萌芽林「調査地17」

高木層：クヌギ（優占）、コナラ、ノグルミ、ヤマザクラ。低木層：ノグルミ、アラカシ、サルトリイバラ、ナンテン、ネズミモチ、ヒサカキ、クサギ、ナワシログミ、マサキ、マルバウツギ、カエデドコロ、ヤマガキ、ヌルデ、ナナミノキ、ヤマフジ、ナツハゼ、ノイバラ。草本層：イタドリ、ヤブラン、ナキリスゲ、マンリョウ、シロヨメナ、ススキ、コ

ウヤボウキ、イボタノキ、ヒオウギ、クサイチゴ。

4) 河畔及び河川敷・川原の植物

吉野川に沿ってアキニレ、エノキ、センダン、ヨシノヤナギ、ニセアカシアなどの高木が生育する河畔林や水防竹林のマダケ林が広範囲に残され、その林床や林縁にはイヌハギ、イヌアワ、アキザキヤツシロランなどの希少種が生育している。

また、洪水などによって絶えず攪乱される河川敷や川原には、ツルヨシ、カナムグラなどのほか、シナダレスズメガヤ、セイタカアワダチソウなど、多くの帰化植物が生育している。

(1) 芝生役場の南吉野川河畔林「調査地18」

高木層：アキニレ（優占）、エノキ（192cm、202cm）、センダン、キリ、エノキ。亜高木層：エノキ、ムクノキ。低木層：センダン、マサキ、メダケ、ノブドウ、アケビ、クワ、ノイバラ、アオツヅラフジ、ヌルデ、アキグミ、ナワシロイチゴ。草本層：ヤブラン、カテンソウ、ノカンゾウ、ヒメウズ、キツタ（フユツタ）、カラムシ（クサマオ）、ニラ、ジャノヒゲ、ダイコンソウ、スイバ、イタドリ、ヨメナ、ヨモギ、センニンソウ、ヘクソカズラ（ヤイトバナ）、イノコズチ、クズ、ヤブマメ、ナキリスゲ、ムクノキ、クワクサ、ヤブジラミ、エノキグサ、キツネノマゴ、カゼクサ、ネザサ、カナムグラ、ヒメジョオン、カラスノゴマ、ヤハズソウ、メドハギ、コセンダングサ、ヤブガラシ、ホソイ、コゴメガヤツリ、ホソアオゲイトウ、シロザ、イヌビエ、キンエノコロ、カワラマツバ、チョウセンガリヤス、ツボクサ、イヌホオズキ。

(2) 芝生のマダケ林「調査地19」

マダケ、ヤブラン、ヒメウズ、アケビ、カテンソウ、スイバ、ムラサキケマン、クズ、イノコズチ、マンリョウ、アオキ、イノモトソウ、ヒメジョオン、トダシバ、オオニシキソウ、イヌハギ、チヂミザサ、ムクノキ、ヤブミョウガ、ベニシダ、ヘクソカズラ（ヤイトバナ）、イタドリ、アキザキヤツシロラン、ナンテン、ミズヒキ、オカウコギ。

(3) 清水のマダケ林「調査地20」

マダケ、イヌビワ、タマサング、キツタ（フユツタ）、キチジョウソウ、シロダモ、ヤブラン、イノコズチ、テイカカズラ、カテンソウ、マサキ、ムク

ノキ、ナンテン、ヒガンバナ、ヤブミョウガ、ムラサキケマン、ニッケイ、ジャノヒゲ、シケシダ、ヤブガラシ、アキザキヤツシロラン。

(4) 芝生のヤナギ林「調査地21」

高木層：オオタチヤナギ、ヨシノヤナギ、ニセアカシア、エノキ。亜高木層：オオタチヤナギ、オニグルミ、クズ、センダン、ノグルミ、アカメガシワ、クワ、エノキ、アカマツ。低木層：エノキ、ノグルミ、ヌルデ、クワ、ノイバラ、ニセアカシア。草本層：イヌアワ、ツボクサ、センニンソウ、イノコズチ、アケビ、ツルヨシ、チヂミザサ、ノビル、ヒメウズ、ヨメナ、ツボクサ、カナムグラ、ヒガンバナ、イタドリ、カテンソウ、ノカンゾウ、ヤブラン、アレチウリ、フユノハナワラビ、アマチャヅル、ニガクサ、ヨモギ、コヤブラン、ヤブミョウガ、ヨウシユヤマゴボウ、ナキリスゲ、ツルウメモドキ、アカネ、ソクズ、ウド、テリミノイヌホオズキ、ムラサキケマン、ミゾソバ。

(5) 川原の植物（芝生）「調査地22」

カナムグラ、ツルヨシ、ヒガンバナ、ノビル、ウシハコベ、ソクズ、ヤエムグラ、ノハカタカラクサ、オシロイバナ、ツルマンネングサ、オオカナワラビ、トダシバ、オオフタバムグラ、メリケンカルカヤ、コニシキソウ、カナムグラ、ススキ、ラッキョウ、ネズミノオ、マルバアサガオ、エゾノギシギシ。

(6) 川原の植物（清水）「調査地23」

シナダレスズメガヤ（優占）、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、エノキ、ヨシノヤナギ、アカメヤナギ、メドハギ、イノコズチ、ツルウメモドキ、ノコンギク、イタドリ、ウツギ、カラムシ（クサマオ）、テリハノイバラ、カタバミ、スミレ。

*川岸～竹林間

ツルヨシ（優占）、ネコヤナギ、アカメヤナギ、ミゾソバ、ヨモギ、イヌコウジュ、ニガナ、ベニバナボロギク、セイタカアワダチソウ、スイバ、オオオナモミ、キンエノコロ、イタドリ、ホウキギク、ケアリタソウ、ヌカキビ、ヤナギタデ、オオクサキビ、オオイヌタデ、ヒメガマ、スカシタゴボウ。

5) ため池・湿地の植物

近年、ため池や湿地に生育する植物の多くが、水質汚染や開発による埋め立て、改修工事などによっ

て絶滅に追いやられている。本町にも山麓に多くのため池があるが、水生植物が生育している池はまれである。しかし、次にあげた二カ所のため池は、周囲に樹木が茂り、緩傾斜の浅水域などの良好な生育環境が保たれ、多くの希少種が生育している貴重な場所である。

(1) 芝生桶川池「調査地24」

キシウスズメノヒエ、アキメヒシバ、ホウキギク、アゼムシロ、トキンソウ、キカシグサ、アブノメ、ヌマカゼクサ、マツバイ、ハリイ、ヤナギタデ、アゼナルコスゲ、ギョウギシバ、ハナイバナ、ノチドメ、コゴメガヤツリ、エノキグサ、アメリカイヌホオズキ、ヒサカキ。

(2) 芝生の高速道路横の風呂谷池「調査地25」

イトモ（群生）、ナガエミクリ、アシカキ、ミゾソバ、オオイヌタデ、イボクサ、ホソバノウナギツカミ、ミズユキノシタ、

その他、次のような小規模な湿地や沼がある。

(3) 清水上字山田のハス田・湿地「調査地26」

ハス（栽培）、セリ、ミゾソバ、ガマ、セイタカアワダチソウ、キツネノボタン、アシカキ、ヒメガマ、クサヨシ、コナギ。

(4) 滝ノ奥湿地「調査地27」

山麓の畑地の溝に流入する小規模の湧水があり周辺が湿地状になっていて次のような植物が生育している。

ホソバリンドウ、ヒメシダ、ミツバツチグリ、アカバナ、ツリガネニンジン、コオニユリ、サワヒヨドリ、シコクアザミ、ワサビ、カワラナデシコ、アブラガヤ、アキカラマツ、オミナエシ。

(5) 旧流路の河跡湖「調査地28」

竹林と竹林の間に旧流路からできた沼がある。水中にはオオカナダモが群生していて沼の周囲には次のような植物が生育している。

マルバヤナギ、クワ、チャ、オニドコロ、エノキ、ムクノキ、シロダモ、オオタチヤナギ、ミゾソバ、アゼナルコスゲ、ツルヨシ、カラムシ（クサマオ）、オオイヌタデ、タガラシ、ヤナギタデ、セリ、ガマ、センニンソウ、ビナンカズラ、ヤブニッケイ、オオカナワラビ、ヤブソテツ、ニガクサ、ノハカタカラクサ、アメリカセンダングサ、カナムグラ、アゼガ

ヤ、チョウジタデ、オヒシバ、アキノエノコログサ、キシウスズメノヒエ、オドリコソウ、メヒシバ、イヌタデ。

(6) 水田の雑草

かつて水田に多く生育していた雑草は、除草剤の散布により、少なくなっている。本町でも例外ではないが、山間地水田で次のような植物を確認した。

シロバナサクラタデ、アメリカミズキンバイ、タカサブロウ、イヌガラシ、ウキクサ、アオウキクサ、ウリカワ、トキンソウ、クログワイ、ヒメアメリカアゼナ、チョウジタデ、コナギ、オモダカ、オオバナネツケバナ、ミゾハコベ、ムラサキサギゴケ。

6) 伐採跡・休耕地の植物

伐採跡や休耕地には荒廢地を好む草本類や帰化植物が多く生育する。例記すると次のようである。

(＊印は帰化植物)

(1) 健康の森周辺の草原の植物「調査地29」

クズ、アカメガシワ、＊オオニシキソウ、＊ヒメジョオン、＊シナダレスズメガヤ、ツユクサ、＊セイタカアワダチソウ、ヌルデ、ソバ(栽)、メヒシバ、アキノエノコログサ、リョウブ、ワラビ、ヘクソカズラ(ヤイトバナ)、シロヨメナ、＊コセンダングサ、ソヨゴ、タラノキ、ハゼノキ、ヤブムラサキ、メドハギ、＊ヨウシュヤマゴボウ、＊ヒメムカシヨモギ、クリ、オカトラノオ、コナラ、サルトリイバラ、ヒメコウゾ、ヤマツツジ、アラカシ、コシダ、イヌツゲ、カニクサ、ヒサカキ、クサイチゴ、オンツツジ、ヤマハゼ、イヌザンショウ、＊オオアレチノギク、イタドリ、ニシキギ(栽)、ビヨウヤナギ(栽)、ヨモギ、エノキグサ、ヒヨドリジョウゴ、カラムシ、ツクシハギ、タケニグサ、＊ヒメスイバ、ハハコグサ、エゴノキ(栽)、イヌシデ(栽)、ネズミサシ、＊オオキンケイギク、＊キヌガサギク、コスカグサ、コヒルガオ、ナルコヒエ、オオエノコロ。

その他、本町では次のような帰化植物を確認した。(再掲有り)

アメリカミズキンバイ、アメリカアゼナ、ヒメアメリカアゼナ、テリミノイヌホオズキ、アメリカイヌホウズキ、ナヨクサフジ、ハキダメギク、コニシキソウ、オオフタバムグラ、アメリカセンダングサ、ノハカタカラクサ、セイバンモロコシ、ヒメモロコ

シ、ノゲイトウ、アオゲイトウ、ホソアオゲイトウ、ホナガイヌビユ、イヌビユ、キシウスズメノヒエ、オオクサキビ、カラシナ、オオイヌノフグリ、ベニバナボロギク、ホウキギク、オオオナモミ、ケアリタソウ、オシロイバナ、メリケンカルカヤ、エゾノギシギシ。

7) 巨樹・巨木

社寺や民家、谷筋などにはクスノキ、イチヨウ、ムクノキなどの巨樹・巨木が残されている。調査したもののうち、主なものをあげると次のようである。(一部は前述のものを再掲)

クスノキ：610cm(勢力神社の前の民家、佐野忠夫氏宅)、404cm(田野の愛宕神社)、364cm(荒神社)、321cm(芝生の勢力神社)。イチヨウ：462cm(清水の八幡神社)、428cm・348cm(川端の川花神社) 266cm(♂)、191cm(♀)(出来神社)。スギ：278cm(芝生の勢力神社)、140cm(出来神社)。ムクノキ：371cm・321cm(清水の下加茂神社)、310cm・227cm(松尾神社)、309cm(清水の八幡神社)、275cm・280cm(熊野十二神社)、347cm・324cm(芝生の勢力神社)、177cm・146cm(清水の谷筋)。カゴノキ：248cm(芝生の松尾神社)。メタセコイヤ：239cm(荒神社)。カヤ：221cm・149cm・138cm(熊野十二神社)。アラカシ：215cm・205cm(川端の川花神社)、166cm(熊野十二神社)、118cm(清水の下加茂神社)。クロマツ：215cm(猪の久保の西藤氏宅)。エノキ：279cm・262cm・261cm・255cm・181cm・179cm(清水の下加茂神社)、202cm・192cm(吉野川河畔)、135cm・171cm(出来神社)。コナラ：528cm・275cm・251cm(馬瓶～土釜の祠)、135cm(清水の谷筋)、127cm(馬瓶の出来神社)。イタヤカエデ：分岐幹2本で211cm(馬瓶の出来神社)、166cm(馬瓶～土釜の祠)。ケヤキ：380cm(龍頭神社)、218cm・168cm・145cm・139cm(清水の谷筋)。カゴノキ：149cm(清水の下加茂神社)。クスドイゲ：100cm・57cm(日吉神社)。センダン：252cm(清水の谷筋)。

8) 特筆すべき植物

今回の調査により、次のような希少種が確認された。

(1) 徳島県版レッドデータブック・環境庁版レッドデータブック掲載種

環境庁（現環境省）は2000年に、絶滅のおそれのある植物のリストを「改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック」植物Ⅰ（維管束植物）2000（以下環境庁版RDB）に公表した。それを受ける形で、徳島県は、2001年に「徳島県の絶滅のおそれのある野生生物<徳島県版レッドデータブック>2001」（以下徳島県版RDB）を発刊した。それらに掲載されている種のカテゴリーは次のようになっている。

環境庁版では、「絶滅危惧ⅠA類」は絶滅の危機に瀕していて、ごく近い将来に絶滅の危険性が極めて高い種、「絶滅危惧ⅠB類」はⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高いもの。「絶滅危惧Ⅱ類」は、絶滅の危険が増大している種。「準絶滅危惧」は、存続の基盤が脆弱な種。「情報不足」は絶滅危惧のカテゴリーに属すると考えられるが、評価するだけの情報が不足している種。徳島県版では、ⅠA類、ⅠB類を区別せずにⅠ類としている。

今回の調査で生育を確認した該当種は次のようである。

*キンラン（ラン科）

Cephalanthera falcata (thunb.) Blume

（徳島県：絶滅危惧Ⅱ類、環境省：絶滅危惧Ⅱ類）

本州・四国・九州に分布する多年草。県内には広く生育していたが、生育環境の悪化や園芸採取などで減少した。本町では、藤黒のアカマツ林の林縁に数個体生育していた。

*エビネ（ラン科）*Calanthe discolor* Lindl.

（徳島県：絶滅危惧Ⅱ類、環境省：絶滅危惧Ⅱ類）

北海道（西南部）・本州・四国・九州・琉球に分布する多年草。

本県では広く生育していたが、園芸用採取のために激減した。本町の檜ノ休場の樹林下で生育を確認した。

*クロフネサイシン（ウマノスズクサ科）

Asiasarum dimidiatum (F.Maek.) F.Maek.

（徳島県：絶滅危惧Ⅱ類、環境省：絶滅危惧Ⅱ類）

四国・九州に分布する多年草。県内での分布は比較的広く、脇町・山川町・井川町など15町村で生育が確認されている。個体数は多くない。本町の大川山でも生育を確認した。

*ヤブサンザシ（ユキノシタ科）

Ribes fasciculatum Sieb. et Zucc.

（徳島県：絶滅危惧Ⅱ類、環境省：該当なし）

本州・四国・九州に分布する落葉低木。県内の生育はまれで、阿南市、鷲敷町、上勝町、穴吹町で確認されている。本町の松尾谷川沿い、中屋東の林縁で生育を確認した。

*イトトリゲモ（イバラモ科）

Najas japonica Nakai

（徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：絶滅危惧ⅠB類）

北海道・本州・四国・九州・琉球に分布する一年生水草。県内での生育は極めて少なく、阿南市にわずかに生育しているが、絶滅寸前である。平成13年の夏に、本町のため池で、多数生育しているのを確認したが、平成14年度は確認できなかった。生育環境の条件が整えば再び出現すると考えられる。

*キキョウ（キキョウ科）

Platycodon grandiflorum (Jacq.) A. DC. (図3)

（徳島県：絶滅危惧Ⅱ類、環境省：絶滅危惧Ⅱ類）

北海道・本州・四国・九州に分布する多年草。秋の七草の一つで、県内でもかつては広く分布していたが、生育環境の変化や採取により減少した。

本町では、芝生や藤黒などの林縁に十株程度確認できた。



図3 キキョウ

*イトモ（ヒルムシロ科）*Potamogeton pusillus* L.

（徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：絶滅危惧Ⅱ類）

北海道・本州・四国・九州の湖沼やため池、河川などに生育する沈水植物。水質の悪化やため池の改修などで減少している。本県では山地のため池で生育が確認されることが多い。本町でも山麓のため池に群生しているのを確認した。

***イヌハギ (マメ科)**

Lespedeza tomentosa (Thunb.) Sieb. ex Maxim.

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：絶滅危惧Ⅱ類)

本州・四国・九州・琉球に分布する多年草。本県では、鳴門市・阿波町・市場町・脇町などで確認されている。本町でも吉野川河川敷に生育しているが、個体数は多くない。

***ナガエミクリ (ミクリ科)**

Sparganium japonicum Rothert (図4)

(徳島県：準絶滅危惧、環境省：準絶滅危惧)

本州・四国・九州の河川、湖沼、ため池などに生育する多年草。河川やため池の改修などで減少している。本県でも分布は広く、各地のため池、河川、水路などに生育している。本町でも山麓のため池でわずかであるが生育を確認した。



図4 ナガエミクリ

***オミナエシ (オミナエシ科)**

Patrinia scabiosaefolia Fisch.

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

北海道・本州・四国・九州の草原に生育する多年草。秋の七草の一つとして親しまれてきた植物であるが、生育に適した環境の減少や採取により激滅している。

本県でも広く分布していたが、現存する場所は限られている。本町では、滝ノ奥の湿地草原で生育を確認した。

***オカウコギ (ウコギ科)**

Acanthopanax japonicus Franch. et Savat.

(徳島県：情報不足、環境省：該当なし)

本州(関東南部・東海・紀伊半島)・四国に分布する雌雄異株の落葉低木。ヤマウコギに比べて、葉が小型で鋸歯が粗く、重鋸歯が混じる。県内では阿

南市にのみ記録がある極めてまれな植物。本町の竹林で数個体が生育しているのを確認した。

***アキザキヤツシロラン (ラン科)**

Gastrodia nipponica (Honda) Tuyama (図5)

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球に分布する腐生植物。県内では主に県南の阿南市・牟岐町に記録がある希少植物。今回の調査で本町の竹林に十数個体以上が生育しているのを確認した。



図5 アキザキヤツシロラン

***ギンラン (ラン科)**

Cephalanthera (Thunb.) Blume var. *erecta*

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

本州・四国・九州の樹林下や林縁に生育する多年草。森林伐採や園芸採取などで減少している。県内では、木頭村・木沢村・鳴門市・海南町・日和佐町などに生育しているが個体数は少ない。本町では大川山で生育を確認した。

***ツレサギソウ (ラン科)**

Platanthera japonica (Thunb.) Lindl.

北海道(西南部)・本州・四国・九州・琉球で山地の樹林内や林縁に生育する多年草。園芸目的の採取などで激滅している。県内では木頭村・一宇村に生育している。剣山をはじめ東祖谷山村・池田町・神山町・木屋平村など、各地の山地に生育の記録がある。本町では大川山で生育を確認した。

***ヌマカゼクサ (イネ科)**

Eragrostis aquatica Honda

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

関東以西・四国に分布する一年草。県内では阿波町にのみ生育が知られていた極めてまれな植物。本町のため池の干上がった部分に多数生育を確認した。

***ミズオオバコ (トチカガミ科)**

Ottelia japonica Miq.

(徳島県：絶滅危惧Ⅱ類、環境省：該当なし)

本州・四国・九州の湖沼・ため池・水田や水路に生育する沈水植物。農薬や工事などの影響で減少している。県内では、徳島市など四市と海南町・由岐町・那賀川町に生育している。本町のため池でもわずかに生育を確認した。

***オオカラスウリ (ウリ科)**

Trichosanthes bracteata (Lam.) Voigt

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

本州(近畿)・四国・九州・琉球の河畔林や川沿いのやぶ地などに生育する多年草。県内では、板野町・上板町・脇町・穴吹町・鳴門市に生育するが、個体数は少ない。本町では、吉野川沿いの神社で生育を確認した。

***キジカクシ (ユリ科)**

Asparagus schoberioides Kunth (図6)

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

北海道・本州・四国・九州の山麓の林縁に生育する多年草。県内では、鳴門市や山川町など数カ所に記録があるが、生育は確認できなかった。今回の調査で、本町のヒノキ林に一株だけ生育しているのを確認した。



図6 キジカクシ

***テリハキンバイ (バラ科)**

Potentilla riparia Murata

(徳島県：情報不足、環境省：該当なし)

本州(近畿・中国地方)・四国の山地で日当たりのよい草地に生育する多年草。

山川町・市場町・佐那河内村などに生育している。本町でも大川山で生育を確認した。

***トウギボウシ (オオバギボウシ) (ユリ科)**

Hosta sieboldiana (Lodd.) Engler

(徳島県：絶滅危惧Ⅱ類、環境省：該当なし)

北海道(西南部)・本州・四国・九州で山地の草原に生育する多年草。県内では、山城町・相生町に生育している。本町でも大川山で生育を確認した。

***ヤマジスゲ (カヤツリグサ科)**

Carex bostrychostigma Maxim.

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

本州(近畿以西)・四国・九州で山地の草原に生育する多年草。県内では、美馬町・半田町・池田町・三加茂町・東祖谷山村・山川町・脇町で記録されている。本町の大川山で生育を確認した。

***イヌアワ (イネ科)**

Setaria Chondrachne (Steud.) Honda

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

本州(東北南部以西)・四国・九州で山野の草地に生育する多年草。県内では、穴吹町・阿南市に生育している。本町でも吉野川河畔で小群落を確認した。

***コフウロ (フウロソウ科)**

Geranium tripartitum R.Knuth

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

本州(山形県・宮城県以南)・四国・九州で山地の樹林下に生育する多年草。県内では山川町・佐那河内村に生育している。池田町・山城町・木沢村・木頭村・東祖谷山村・木屋平村・神山町に記録がある。本町でも大川山で生育を確認した。

***ミヤコアオイ (ウマノスズクサ科)**

Heterotropa aspera (F. Maek.) F. Maek.

(徳島県：絶滅危惧Ⅱ類、環境省：該当なし)

本州(近畿以西)・四国で山地の樹林下に生育する多年草。森林伐採や採取などで減少している。県内での分布はかなり広く、徳島市をはじめ10町村で生育している。本町でも檜ノ休場の林床で生育を確認した。

***オオナキリスゲ (カヤツリグサ科)**

Carex autumnalis Ohwi

(徳島県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：該当なし)

本州（近畿以西）・四国・琉球の山地樹林内に生育する多年草。県内では一宇村・木沢村に生育していて、徳島市・阿南市・剣山・西祖谷山村・井川町に記録がある・本町でも、竜頭の滝周辺で生育を確認した。

(2) 絶滅危惧種以外の珍しい植物

*ニッケイ（クスノキ科）

Cinnamomum loureirii Nees

民家でも栽培されている常緑樹。本町の竹林内に数個体の幼木が生育していて、小鳥によって種子が運ばれたものと思われる。

*ホソバリンドウ（リンドウ科）

Gentiana scabra Bunge var. *buergeri* Maxim. f. *stenophylla* (Hara) Ohwi

湿地や溪流沿いに生育するリンドウの細葉の品種で、県内では池田町などに生育している。本町の滝ノ奥の草むらでも数個体の生育を確認した。

*オオアブラススキ（イネ科）

Spodiopogon sibiricus Trin.

山地の草原に生育する多年草。県内では美馬町や佐那河内村などに生育し、生育地での個体数はかなり多いが分布は限られている。本町でも滝ノ奥で生育を確認した。

*ツチアケビ（ラン科）

Galeola septentrionalis Reichb. f.

山地の林内に生育する多年生の無葉ラン。県内の分布はかなり広いが、森林伐採などで減少している。本町では、大川山で生育を確認した。

4. おわりに

多様な生物が生息する生態系を守り、自然から受ける物質的、精神的な様々な恵みを、私たちがこれまで受けてきたと同じように、子孫にも遺していかなければならないことが、日本の環境基本法（1993年）にも示され、様々な施策が講じられるようになってきている（矢原、2002）。

調査の結果、本町には、四季折々に装いを変える冷温帯域の落葉樹林。長い間地域の人々と深く関わり、その生態系の産物を利用することで人々の生活を支え、維持されてきた里山。多様な生物相を育む

だけでなく、歴史的、文化的な価値を併せもつ社寺林、人々が洪水と戦った歴史的遺産でもある吉野川河畔の水防竹林、山麓のため池群。地域の歴史や変化を見つめながら、樹齢を重ねてきた巨樹・老木。そして、今正に絶滅の危機に瀕している多くの希少種を確認することができた。これらの貴重な植物や豊かな生態系が今後とも維持されるよう、現存する多様な自然環境の保護・保全について、十分に配慮されることを希望する。

文 献

1. 北村四郎・村田 源・堀 勝（1958）原色日本植物図鑑草本編（Ⅰ）合弁花類。保育社。
2. 北村四郎・村田 源（1961）原色日本植物図鑑草本編（Ⅱ）離弁花類。保育社。
3. 北村四郎・村田源・小山鐵夫（1967）原色日本植物図鑑草本編（Ⅲ）単子葉類。保育社。
4. 北村四郎・村田源（1971）原色日本植物図鑑木本編（Ⅰ）。保育社。
5. 長田武正（1976）原色日本帰化植物図鑑。保育社。
6. 北村四郎・村田 源（1979）原色日本植物図鑑木本編（Ⅱ）。保育社。
7. 牧野富太郎（1989）「増補改訂新日本植物図鑑」。北隆館。
8. 阿部近一（1990）「徳島県植物誌」。教育出版センター。
9. 岩槻邦男（1992）「日本の野生植物シダ編」。平凡社。
10. 佐竹義輔ほか編（1993）日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類。平凡社。
11. 佐竹義輔ほか編（1993）日本の野生植物草本Ⅱ 離弁花類。平凡社。
12. 佐竹義輔ほか編（1993）日本の野生植物草本Ⅲ 合弁花類。平凡社。
13. 佐竹義輔ほか編（1993）日本の野生植物木本Ⅰ。平凡社。
14. 佐竹義輔ほか編（1993）日本の野生植物木本Ⅱ。平凡社。
15. 長田武正（1994）日本イネ科植物図譜。平凡社。
16. 角野康郎（1994）日本水草図鑑。文一総合出版。
17. 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七（2001）日本帰化植物写真図鑑。全農教。
18. 木下 覺ほか（2001）総合学術調査報告 阿波学会紀要第47号 相生町の植物相（47-64頁）阿波学会・徳島県立図書館。
19. 小川 誠ほか（2002）阿波学会紀要第48号 佐那河内村総合学術調査報告 佐那河内村の植物相（25-36頁）阿波学会。
20. 矢原徹一ほか（2002）保全と復元の生物学 野生生物を救う科学的思考。種生物学会編。文一総合出版。
21. 岩崎正夫（1990）徳島県地学図鑑。徳島新聞社。
22. 財とくしま地域政策研究所（1999）吉野川辞典。農文協。
23. 徳島地方気象台・日本気象協会（1991）徳島の気象100年。徳島出版株式会社。
24. 環境庁（2000）改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 植物Ⅰ（維管束植物）。
25. 徳島県（2001）徳島県の絶滅のおそれのある野生生物。